

第5学年〇組 「親子タイム」プログラム（参観日）

平成22年2月23日（火）第5校時
 第5学年〇組 男子12名 女子10名
 場所 生活科室
 進行・ロールプレイ 久保田 由香
 ロールプレイ 5年〇組担任

1. 題材 揺れる子どもの心 ～十代のスタート地点で大切なこと～

2. 題材設定の理由

実践学校の教員へのアンケートでは、保護者の子育ての課題として、「適切にほめたり叱ったりできない」や「子どもとのかかわりが不足している」が多くあげられている。また、保護者へのアンケートからは、学習以外にも、生活態度や友だちとのかかわりや親子のかかわりなどが特に気になっていることが分かった。思春期を迎える前後では、子どもは自立に向けて心も体も大きく変容する。親はそのような子どもの姿に、それまでと同じかかわり方をしてもしっくりこないことに苛立ちを覚え、困惑したり、余裕のない対応をしたりしてしまう場合がある。また、子どもはまだ甘えが必要な不安定な時期だが、安易に放任する親や、気持ちを閉じ込めてしまっただけで反抗しない子を「いい子」と安心し、いつまでも自立を促す意識をもてずに子離れできない親もいる。

子どもが自立していくプロセスやその時期の子どもにありがちな態度を知り、これは自立に向けて必要な態度だと理解できれば、余裕をもって見守ることができる。落ち着いて安定した親の愛情ある「見守る」というかかわり方によって、揺れ動く子どもは安心をし、自立に向けて健全に成長をとげることができる。それが、子どもの問題行動の予防につながる。

そこで、この時期の子どもの家庭でのありがちな場面を見て子どもの気持ちを考え、子ども達の生の声を聞くことで、それぞれの家庭での場面を思い起こし、子ども理解を深める機会にしたい。また、今までの親としてのかかわり方を振り返り、今後のかかわりをどのようにしていくか考えるきっかけにしたいと考えた。そして、児童に対するねらいは、思春期の心と身体の変化を知り、自己理解や保護者理解を深め、保護者とのかかわり方を考えるということにした。

3. ねらい

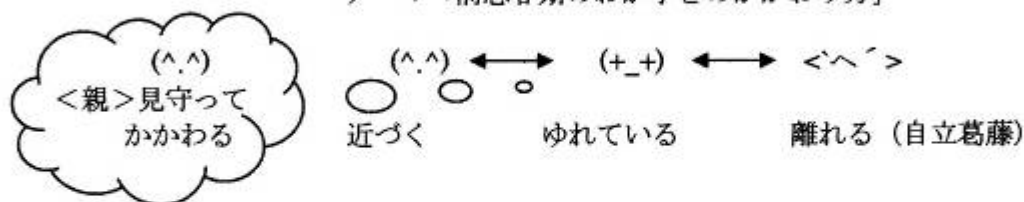
- ① 親が前思春期を迎えた子どもの心を理解し、子どもとのかかわり方を考えるきっかけにする。
- ② 保護者同士のかかわりを深める。

4. 準備

- ① 親用名札（子どもの名前を書いてひもを付けておく）
- ② ワークシート（親用、子ども用）
- ③ 親用筆記用具
- ④ ロールプレイ用のマンガ本、ランドセル
- ⑤ 気持ちカード（画用紙B5に2場面の吹き出し）

5. 支援のポイント

テーマ「前思春期のわが子とのかかわり方」



ポイント1：ゆれている子どもの内面を察知してかかわりましょう

ポイント2：親に近づこうとしてきたときはかかわりをもち、自分でやろう（離れよう）としているときは見守りましょう。

6. 展開

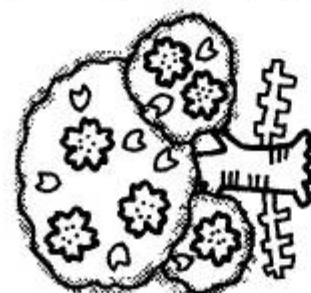
		活動内容	親	子	留意点
ステージ①	2:00	1. 楽しい雰囲気をつくる ・ ふれあいから、相手を感じる ・ 自己紹介 ・ おしくらまんじゅう	○ 子どもは班ごとに、親は子の班に、手をつないで輪になって座る。 ○ 手をつないだ人と肩も合わせて、相手がどんな気持ちか感じる。 ○ 自己紹介に、成長して（小学5年生で）、できるようになったことを添える。（子も親も） ○ 班でおしくらまんじゅうをする。 ○ 親のグループを別につくる。		・ 和やかな楽しい雰囲気にする。 ・ 荷物や筆記用具を輪の外に置くように伝える。 ・ 気持ちカード（画用紙 B5 に2場面の吹き出し）を配る。
ステージ②	2:15	2. 子どもの気持ちを考える ① 生意気なことを言うひろし君 ② いつも一人で入るお風呂に、お母さんと一緒に入りたいと言うゆみさん	◎ ひろし君とゆみさんの家庭でのある場面をお見せしますので、ひろし君とゆみさんの気持ちを考えながら見てください。 【場面①】 いつもは明るいひろし君が帰宅する。ところが帰って来るなり、「ただいま」のあいさつも言わず、ランドセルを放り投げ、マンガ本を読み出す。母親に何を言われても生意気なことを言って、言うことを聞かない。 【場面②】 ここ最近いつも生意気なゆみさんは、もちろんいつも一人でお風呂に入るし、一人で寝ています。ある日、突然「お母さん、一緒に風呂入りたい。一緒に寝たい」と言う。 ○ 気持ちカードの吹き出しにひろし君、ゆみさんの気持ちを書く。 ○ 気持ちカードの吹き出しにひろし君、ゆみさんの気持ちを書く。 ひろし君、ゆみさんの気持ちを考えて、思うことを出し合ひましょう。 ○ グループで意見交換をする。（カードを見せ合ってもよい） ○ 班で意見交換をする。（カードを見せ合ってもよい） ○ 出された意見を紹介したり、感想を発表したりする。 【場面①】 ・ 反抗期。 ・ うちでもある。どうしたらいいかわからない。（親） ・ ぼくも、ひろし君みたいな時がある。なんか、イライラする。（子）		・ 親も子どもどちらも悪者にならないように、また、うまくいっていない親子が傷つかないように、ある仮想の家庭として考えるように配慮しながら、子どもの気持ちを考えさせる。 ・ 名前は書かなくてよい。親か子か○で囲んで記す。

ステージ②			【場面②】 ・ やっと一人でなんでもできるようになったと思ったら、急に甘えることが家でもある。（親） ・ わたしも、ゆみさんみたいな時があった。不安になって、小さい頃みたいに甘えたい気持ちになったことがある。（子）		
ステージ③	2:40	3. 子育てについて親同士で話し合う	（子どもが退席して） ○ 子育てについて話し合う。 みなさんの家庭では、どうですか？今日の場面をきっかけに、話し合ってください。 ・ 家の子は、…	＜子どもたちへ＞ みなさんは、いろんなことを悩んで、お家の人にそっとしてほしいなと思ったり、もう自分でできるのにと子ども扱いされることに苛立ったりすることがあるでしょう。また、やっぱり幼い頃と同じように甘えたいと思ったり、いろいろな気持ちになることがあるでしょう。それは成長の証です。 そんなもやもやした自分の気持ちを分かってもらえたら嬉しいですね。 うまく、お家の人に伝えられるといいですね。	
	2:45		＜保護者のみなさんへ＞ お母さん、お父さん、思春期前後の子どもさんの気持ちは複雑で難しいものですね。これは、発達によるものです。 子どもをよく観察していると、揺れている子どもさんの内面を察知することができます。 ひろし君のように意地を張っているように見えても、自分でやろう（離れよう）としている時には愛情をもってそっと見守ってあげることが大切です。でも、口出しせずに見守るということは本当に難しいですね。 一方では、必要とされている時には思いっきり甘えさせ、安心させてあげることも大切です。 ゆみさんのように、お風呂と一緒に入ろうとか、身体はもう同じぐらいの大きさなのに、急にひざに乗ってくるとか、そういうことがあるかもしれませんが、その時は幼い頃のように応じてあげるといいと思います。自立していくには、そういう安心基地としての家庭がとても大切です。	○ 教室に帰って、ワークシートに記入する。	・ 子どもは教室に帰って記入する。 ※親の気づきが見られたか。 ※子ども理解が深まったか。 ※保護者同士が相談しやすい雰囲気だったか。
	3:00		○ ワークシートに感想を記入する。		・ 名札・気持ちカード・ワークシートの回収をする。

親子タイム便り

2010年4月12日(月)
〇〇小 6年1組
1ヶ月後号改訂版
発行者 久保田 由香

保護者のみなさま



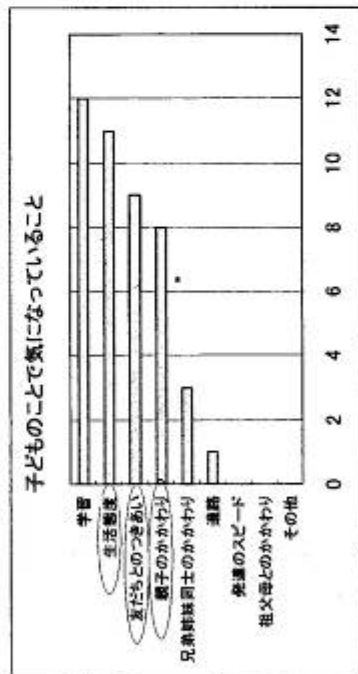
進級おめでとうございます。子どもたちははいよいよ最上級生の6年生になりましたね。

昨年度末のお忙しい時に「親子タイム便り」を配布しましたが、改めて、もう一度お便りさせていただいています。子どもの感想を添えました。目を通していただけたらと思います。そして、アンケートへの記入をしていただき、同封の封筒に入れてポストに投函し、鳴門にいます久保田まで郵送していただけたら幸いです。お手数をおかけして申し訳ありませんが、ご協力どうぞよろしくお願いいたします。



子ども達は、個人差はあるものの少しずつ思春期に向かって成長を続けてきました。最上級生になり、学習や学校でのリーダーとしての務めも大変になってきます。そんな中で、思春期に向かっている心と身体の変化が生じ、どう受け止めたらいかがいかわからずモヤモヤを抱え、いらだっている子ども姿が出てくるかもしれません。思春期前後特有の子育ての難しさをすでに感じている方や、子どもの変化があまり見られず、まだ全く感じていない方もいることと思います。

昨年度5年生の時に、2月23日の「親子タイム」実践前にアンケートにお答えしていたいただきました結果を、下記グラフ(20人の回答、複数回答あり)に整理しました。学習面での心配以外にも、生活態度・友達関係・親子のかかわりなどが気になっていることが分か

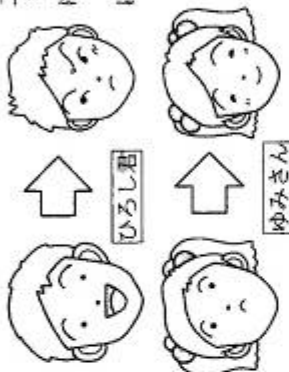


りました。回答は少なかったのですが、自由記述欄の中には、この時期特有の子どもが記されており、子どもにどうかわかったらいいのかわかっていることが伝わってきました。そこで、前思春期の「揺れる子どもの心」をテーマとし、そのテーマに沿った「親子タイム」をさせていただきます。

「親子タイム」では、明るく素直だったのに急に言う事をきかなくなったり生憎なことを言う登場人物のひろし君と、しっかりもので生憎だったのに急に甘えだすゆみさんをお家

でのこまのシーンとして、〇〇先生(担任)と久保田とでロールプレイをして提示し、二人の気持ちを保護者と子ども達と一緒に考えました。「ストレス」、「嫌な事があったらどう」、「疲れている」、「がんばりすぎたから」などの意見が出されました。

参加者は14名、途中入れ替わりもありましたが、最後に8名の方に感想を書いてもらいました。感想では、「中学生の兄弟のことで思い当たる」という意見や、「今まで子どもの気持ちを考えるということにはなかった」ということに気づいた」という意見、「みんなこんな時期があるのだ」と知って安心した」などの意見がありました。



思春期の子どもとのかかわり方のポイントは、ゆれている子どもの内面を察知してかわること。親に近づこうとしたときは安心感を与えられるように甘えさせてもかかわりを持ち、自分でやろう(親から離れよう)としているときは、口出しをしないで愛情をもって見守ることです。安心基地としての役割をしっかりと果たした家庭で十分に安心できたら、自立に向けて親から離れようという外に働きかけます。しかし、まだまだ自立への過程ですから、たびたび安心感を求めてきます。その時に拒絶せず、甘えさせてあげることと心のエネルギーは充電されます。そして、また、社会へ飛び出していきます。その時、親がさみしくなり、「この子はわがしがいいくない」と思う場合は、子離れが難しいかもしれません。自立させてあげよう、子離れの努力も必要だと思えます。また、親の思い通りにさせたいと思う場合は、自立を阻害してしまう恐れがあります。子どもが自分の思いを外に出せずに溜め込んでいて、いわゆる「いい子」の場合は、親は自覚するきっかけをつかめず、なかなかそう思っていることに気がつかない場合もあります。

子どもは生まれてから性格や今までの家庭の歴史もあると思いますが、うまくいっている場合は、このポイントに自然にたどり着くかもしれません。うまくいっていない場合は、長い間にできあがった今までのかかわり方を変えるのはとてもむずかしいですが、親が思い切ったかかわり方を変えてみると、いつの間にか子どもが変わってくる可能性があります。

親子もお互いに影響を与え合っているのですから。保護者のみなさんが自分の思春期の頃の話を折に触れて話されると、子どもはお母さん・お父さんもそうだったんだと安心したり、自分の変化への心の準備ができて安心したりするでしょう。ときどきは、成長の過程について親子で話し合うことをおすすめしたいと思います。



児童の感想より＝

- 〇…ひろし君が急に怒りだしたり、生憎なくらいいっしょにゆみさんが甘えたりということがあったので、ぼくはストレスとか甘えたいという気持ちがあるのかなと思っていて、けど、全部思春期のことだと分かって、これから来ると思うので甘えさせておきたいです。
- 〇ぼくも家でお母さんにえらいそうに言っていると思います。いつも気づかない内にお母さんに言っているのを、今度からちゃんと(自分の思いをうまく)言ってからお母さんとのけんかをなくしたいと思います。
- 〇…人の気持ちは、顔を見て、表情とか言葉にもでてくるんだなと思いました。
- 〇…いらいらしたり甘えたりするのは、思春期の準備ということが分かって安心しました。

第2学年〇組 「親子タイム」プログラム（参観日）

平成22年5月28日（金）第5校時
 第2学年〇組 男子12名 女子12名
 場所 生活科室
 進行 久保田 由香
 T T 2年〇組担任

1. 題材 子どもの気持ちを受け止める
 ～子どもの失敗に対するかかわり方～

2. 題材設定の理由

実践学校の教員へのアンケートでは、保護者の子育ての課題として、子ども理解の為の知識不足や子どもとのかかわりがあげられている。また、保護者へのアンケートからは、学習以外にも、友だちとのつきあい、生活態度、親子のかかわりなどが特に気になっており、自由記述欄からは子どもの生活態度や性格に対する対応の仕方、具体的なほめ方や叱り方について悩んでいることが分かった。

2年生の保護者は、小学校に入学して1年が過ぎ、学校に送り出す緊張感は和らいできていると予想される。日常の親子のかかわりは、無意識のうちに習慣化され繰り返される。まだまだ幼く、失敗も多いこの時期の子どもに対して、子どもの気持ちを考えずにいきなり叱ることはありがちなことであろう。

そこで、ロールプレイにより提示された子どもの失敗とそれに対する親の対応を内容とした家庭での場面を見ることで、普段の子どもとのかかわり方を振り返るきっかけにし、子どもの思いを受け止め、どうかかわるかという相互コミュニケーションについて学び合えるようにしたい。子どもがわかってくれたと思えるような対応ができれば、親子の絆が深まり、直面する問題に対して親子で前向きに解決しようとするようになるのではないかと考えた。また、この時間を通して保護者同士が自分の意見を伝えたり人の意見を聞いたりする中で、親としての思いを共有し、共感し合うことができるよう、保護者同士のコミュニケーションを図りたい。そうすることで、保護者同士のかかわりが深まり、保護者間のつながりができ、今後の懇談会でも子育ての悩みなどを出しやすくなることを期待している。そして、児童に対するねらいは、家族理解・家族愛を育むということにした。また、失敗した相手の気持ちを受け止めて、気をつけようという気持ちが強くなるような言い方や態度ができるよう期待している。

3. ねらい

- ① 子どもの思いを受け止め、子どもとのかかわり方を考えるきっかけにする。
- ② 保護者同士のかかわりを深める。

4. 準備

- ① 親用名札（子どもの名前を書いてひもを付けておく）
- ② ワークシート（親用、子ども用）、アンケート（親用）
- ③ 親用筆記用具
- ④ ロールプレイ用のコップ、スカーフ、牛乳として発泡スチロールの粒
- ⑤ 親用場面カード（画用紙B5）
- ⑥ 新聞紙 ⑦ベル ⑧コミュニケーションカード ⑨ぬいぐるみ

5. 支援のポイント

テーマ「子どもが失敗したら」



ポイント1：子どもの話に耳を傾けましょう。

ポイント2：子どもの気持ちを受け止める叱り方・ほめ方をしましょう。

		活動内容	親	子	留意点
ステージ①	2:00	1. 楽しくかかわり合う。 ・自己紹介リレーをする ・ソーレゲームで3人組を作る ・地球沈没ゲーム	○子どもは班ごとに、親は子の班に、手をつないで輪になって座る。ぬいぐるみを回しながら、好きなものを添えて自己紹介をする。 ○ソーレゲームをする。最後に、親子別に3人組をつくる。 ○地球沈没ゲームをする。沈没したグループは審判役になり、最後まで残ったグループが優勝。		・ベルが鳴ると口を閉じる約束をする。 ・班長にぬいぐるみを渡す。 ・新聞紙見開き1枚ずつグループに配る。
ステージ②	2:20	2. 子どもの気持ち、母親の気持ちを知る。 ① 子どもの、お母さんへの思い ② お母さんの子どもへの思い	◎ ある場面をお見せしますので、子どもの気持ち、母親の気持ちを考えながら見てください。 【場面①】ひろし君ははずみでテーブルの上のミルクをこぼしてしまい、そばにあった物でとっさに拭いた。でも、それは、お母さんの大切にしているスカーフだった。「あっ！」と思った時に、お母さんが帰ってきた。汚れたシルクのスカーフを見てお母さんは、「ひろし、何やってるの、もうどうしゅう…」と一方的にひろし君を怒る。 【あなたは子どもさんをどうして怒るのですか？】 ・成長してほしい ・いい子になってほしい ・イライラして、疲れて ・言いたくないのに怒ってしまう 【子どもさんをどう思っている？】 ・元気に明るく育ててほしい ・大切・かけがえのないもの ・怒っても、愛している ・不安にさせているかも…	○ひろし君は、怒るお母さんに何か言いたいことはないかな。どう思っている？ ・ぼくが悪かった。ごめんなさい ・片付けようとしたただだよ ・怒らないで、悲しくなるよ ・お母さん、怒ってばかりで嫌だ ○どうして、ひろし君のお母さんは怒るのかな？ ・スカーフが汚れて嫌だったから ・いい子になってほしいから ・忙しいのに、晩飯を作らななきゃ ・疲れているから ○そんな怒るお母さんは、ひろし君をどう思っているのかな？ ・嫌いと思う（そんな時、どんな気持ち？）（不安…） ・怒っても、好きだと思う	・テーマを決めた理由を伝える（失敗を怒る時、怒られた時、楽になるかぎは自分と相手の気持ちをよく考える事）。 ・親子が絆を感じられるように、親子のお互いの思いに気づかせる。 ・全て親子への問いかけだが、子どもの生の声を中心に取り上げることで、間接的に、親の【反省】を促す。 ・親の忙しさや疲れを押し量る子どもの思いに気づかせる。 ・怒られて不安な子どもの気持ちに気づかせる。
	2:30	すごいなあ、親も子もつながっているんですね。今日は、勉強になりました。お互いにか けがえがないんですね。お互いの気持ちを考えて大事にできたらいいですね。	○では、子どもが失敗した時に、どうすればいいでしょう。怒るけど愛されているんだと分かってもらうにはどうすればいいか、一緒に考えましょう。（ロールプレイで提示したモデルを見て考える。 ひろし君の失敗した時の気持ちを受け止めて、考えることができましたね。だれでも失敗はしますが、忙しくて疲れていると腹が立って一方的に怒ることもあるかもしれません。腹が立って許すことが難しいこともあるかもしれません。失敗した時の相手（親・子・友だち）の気持ちを受け止めて、気をつけようという気持ちが強くなるような言い方や態度ができるといいですね。嫌われたと不安に思われないようにできると…	○ひろし君は、お母さんが怒っても、お母さんが好き？ ・きっと大好き（あなたもお母さんが好き？）（はい）きっと、後では優しくなってくれる ・抱っこしてくれる ○ロールプレイを見て、大事にされていると感じ、気をつけようという気持ちが強くなるのはどの時か、感じる（グーとパーで判定する）。	・怒られても、母親が大好きという子どもの思いに気づかせるとともに、子どもの思いを手がかりにかかわり方のヒントにつなげる（板書）。 ・事情を聞かずに、「何やってるの」と一方的に叱る場合と、スカーフが汚れてがっかりしているが、拭こうとしたひろし君を思っ、冷静に語る場合を、ロールプレイをする。（お母さん役は進行役と〇〇先生、ひろし役は全員あるいは希望者） ・子どもの反応から、怒った後でも、しっかりと愛情が伝わるかかわり方をさぐる。
ステージ③	2:40	3. 親が幼い頃に怒られた時のことを語り、子どもの気持ちをより理解する。	○幼い頃に怒られた時の話をする（「お父さんもおとっちゃま」話）。 <子どもが退場して> ○子育てについて、保護者同士で意見を出し合う。後の懇談会につなげる（「うちんく」の話）。 ※グループに分かれて、ぬいぐるみを回しながら一人ずつ話す。うなずきながら聞く。 ○ワークシートに感想を書き、アンケートに回答する。	○親の話を聞く。 <教室に帰る> ○宿題としてワークシートに感想を記入する。	・初めの班ごとに座る。 ・コミュニケーションカードの説明をし、家でも話題にするように促す。 ・子どもは教室に帰って記入する。 ※子ども理解が深まったか。 ※保護者同士が相談しやすい雰囲気だったか。 ・名札・ワークシートの回収をする。
	2:45	4. 保護者同士で、子育てについて話し合う。			
	3:00				

7. 留意点

(1) ステージ②場面提示

ひろし君は、学校から帰ってきて、冷蔵庫から牛乳パックを取り出し、コップへ注ぎ飲もうとするがこぼしてしまう。それを片付けようとして近くにあったスカーフで拭く。でも、それはお母さんの大切にしていたシルクのスカーフでした。「あっ!」と思ったところへ、お母さんが仕事から疲れて帰ってきました。テーブルの上のお気に入りの高価なスカーフがミルクで汚れてぐしゃぐしゃになっているのを見て、そこにいるひろしに、「ひろし、何やってるの。もうどうしゅう!」と一方的に怒りました。

<悪いモデル>…愛情が感じられず、子どもの不安をあおる例

- ①外へ出なさい、うちの子じゃない、ひろしはもういらん。
- ②寝るまで怒りっぱなし

<よいモデル>…怒られても、気をつけようという気持ちにさせ、親の愛情を伝えられる例

- ①ひろし、気をつけんといかんよ。お風呂にいっしょに入ろう。お風呂で遊ぼう。お母さんも、大事なものをあんなところへ置いていたから、母さんも気をつけるから。
- ②だまって、抱っこする。大好きだよ、ひろし。

※相手の気持ちを知る。

ひろしは、こぼしたかったのか
 ひろしは、お母さんを怒らせたかったのか
 ひろしは、お母さんが嫌いなのか
 ひろしは、だめな子なのか

お母さんは、ひろしが嫌いなのか
 お母さんは、怒りたかったのか

(2) ワークシート

場面を書いた画用紙の用意。

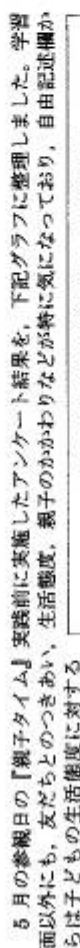
※メモができるように、また、遅れてきた人に場面が分かるようにする。

2010年6月29日(月)
〇〇小 2年〇組
1ヶ月後 号
発行所 久保田 由香

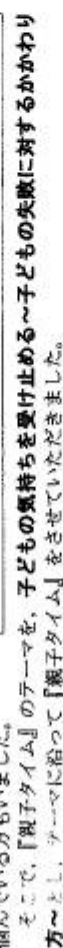
2010年6月29日(月)
〇〇小 2年〇組
1ヶ月後 号
発行所 久保田 由香

梅雨真っ只中、1学期も終盤になりましたが、みなさまお元気でお過ごしですか？9月の参観日を実施させていただきました『親子タイム』から1ヶ月がたちました。参観日ではなかった方へのお知らせを兼ねて振り返りのお便りをさせていただきます。——

まず、アンケートへの記入について、担任の○○先生に提出していただけたら幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。



5月の参観日の『親子タイム』実踏前に実施したアンケート結果を、下記グラフに整理しました。学習面以外にも、友だちとのつきあい、生活態度、親子のかかわりなどが特に気になっており、自由記述欄からは子どもへの生活態度に対する



『親子タイム』では、自己紹介やゲームをした後、学校から帰って来た小学2年生のひろし君がミルをこぼし、お母さんの大切にしているスカーフで拭いてしまう。そこへお母さんが帰宅し、「ひろし、何やっているの、どうしゆう……。」と一方向的に叱る。というある家庭での1シーンを、○○先生と久保田で演じて提示しました。それをもとにして、ひろしくんの思い、お母さんの思いをお母さんが子ども達から（お母さんから）叱るのはいいい子に育ってほしいから（ひろし君は）叱られてもお母さんが「好き好き」といった意見が出されました。また、「怒られたらすねるけど、お母さんは嫌じゃない」「好きだけど、怒られたら嫌い」といった意見もありました。「お母さんは、ひろし君が好き？」と聞くと、「お母さんが、大事に決まってるでしょ！」と言いたくなるような親の思いが子どもには分らない、あるいは確信をもてない、不安だということが表れています。子どもは、親の愛情を言葉や態度で伝えてあげないと、子どもは伝わっていないかというところ、無価値になるのかもかもしれません。

子どもは、愛情たっぷりに大事にされていると、安心し、心のエネルギーが蓄えられ、がんばる力がわいてきます。子どもの気持ちを読み、冷静に叱るにしましたことはありませんが、忙しくてつい怒り飛ばしてしまうたら、その後で子どもに思っていることが分かるようにかかわれば、子どもは気をつけよう、がんばろうという気持ちで再スタートを切ることができます。伝わらないと、子どもは不安になり、怒られるたびに自分はダメだと思い、自信をなくします。逆に嫌みを出す力がわくか。やる気をなくしてしまいうよう。

ひろし君

だから、親が子どもを大事に思っている気持ちをはきちょうと伝えることはとても大切で、「お母さん(聖母)は、わたしのことを好きに決まっちゃう!!」と聞えるようにしてあげるといいですね。

【ねえ、聞いてカード】ねえ、話してカード」を配付しましたが、役立っているでしょうか？養親から会話が多くの家庭では必要ないかもしれませんが、忙しさの中できつかけがつかない場合は、うまく使ってもらえたらと思います。保護者のみなさんが自分の子どもの顔を折に触れてすることで、子どもはお父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんもそうだったんだと安心するでしょう。

大変なことも多いと思いますが、親子間のコミュニケーションを密にし、また、保護者同士で子育て経験をし、楽しみながら子育てができることを願っています。

○集くまた耳の痛い話をありがとございます。ステージ②を見ながら、開口一番の一言二言多いいつもの自分がいると苦笑をしてみたいました。最初の一言を心にしまうことが、一番の課題のように思います。…「私の子ども頃には仲がいいし、しっかりしている」とこれからも伝えていこうと思います。最後に、各学年で親子タイムをしたら、どんな結果になるんだろうと興味があります。

●仕事をしていた忙しい毎日を送っている中で、自分が余裕のない時やあわただしい時……ついそのイライラを子どもにぶつけてしまっていることがあるなあ～と反省しました。最後に保護者だけの時間があり、その中で5～6人の人とグループになり話をした中で、自分の子どもはけっこう頑張っただけなのに学校の中で5～6人の人とグループになり話をした中で、自分の子どもはけっこう頑張っただけなのに学校の宿題に取り組み、きちんとやっているんだという気があり、そのことは家に帰ってから我が子が

とも話をし、「えらいね、頑張っているね!」とほめてあげておきました。他の子どももみんな同じことをはなはなかなかったのだから、そのことが私にとっては一番大きな発見と大切な収穫でした。○子ども達も達が相手の気持ちを考えるという機会をつくってもらえてよかったのです。家でも説明・話をしてもその時だけ……ですが、みんなと一緒に考え、答えを出す、本人も納得するみたいで分りやすかったです。親としても、忙しきでつい感情的になり、子どもの気持ちまでまわらず、「そっかー!」と反省もしました。

●先生のお芝居やいろんなゲームがあって、すごく楽しかったです。最近本当によく怒っているの、でも怒られて嫌な気持ちだろうと思います。怒った自分も嫌いであって、また怒っている。子ども達を手を上げて嫌な気持ちになります。でも、怒られても親の事が分いていないのに、子ども達が手を上げていたのはほんとでした。今回の授業を受けて、保育園の頃までは、毎日「大好き！」と言っていて、今では嫌いなあなあと感じました。最近あんまりしてないの、もっとスキャンシップをたくさん抱きしめてあげたいなと思います。また、今回のグループ形式での授業は、怒り方も見直し、怒る回数も減らしたかったなと思います。今まで怒った事が無い方とも話せて楽しかったです。

○子どもものの気持ちを改めて考えなくては…と思います。どうしても感情で怒ってしまう時もあるので、気持ちは大事にしたいです。保護者同士で子育て相談が私にとっても参考になりました。どの家庭も悩み事は一緒なんだなと安心しました。…

●とても楽しかったです。私は、懇談会にはいつも参加しています。この頃はいつも残る人は一緒に多少ななく感じていました。今日は、そのまま残っていたのでたくさんの出席。いつもこんなに残って懇談会ができた方がいいな！と思いました。子育てについては、自分の子どもの性格は分かっているもので、対応は分かっているつもりですが、カッとなって怒ってしまうことがあります。「お母さん、疲れているから手伝ってあげよう」という気持ちでして怒っているのに怒ってしまったと反省することもあります。子どもには愛情を注いで子育て頑張っています。

○お母さんが子どもにどう言ったらうれしいのか、3個の答えから選ぶので、ぼくは3番目の言い方がいいと思います。自己した。お母さんが優しく言ったところがよかったです。自己しようかいのとき、自分の番がきて、ドキドキしました。みんなが好きな食べ物が聞けてよかったです。

- わたしは、お母さんに怒られたらトイレに入ってますねえ。自分の部屋に入って腹が立ったからノートを投げ捨てたりするけど、ひろし(彼)の○○先生はどうしますか？
- …お母さんも子どもたちの時、怒られたんだなあと、それが一番おもしろかったです。
- …お母さんは、わたしたちのことを思って怒って、怒られても、心の中でわたしたちをお母さん大好きだよってことまで、怒るけど、お母さんは優しいです。



資料4…実践Ⅱ

第3学年〇組 「親子タイム」プログラム（参観日）

平成22年6月25日（金）第5校時
 第3学年〇組 男子13名 女子13名
 場所 会議室
 進行 久保田 由香
 T T 3年〇組担任

1. 題材 子ども同士の信頼感や絆を育む
 ～子ども同士のトラブルに対するかかわり方～

2. 題材設定の理由

実践学校の教員へのアンケートでは、保護者の子育ての課題として、「適切にほめたり叱ったりできない」や「子どもとのかかわりが不足している」が多くあげられている。また、保護者へのアンケートからは、学習以外にも、友だちとのつきあい、生活態度、親子のかかわりなどが特に気になっており、自由記述欄からは子どもの性格や嫉の度合いについて、また、行動範囲が広がり、友だちとのトラブルや友だちの家で遊ぶ時のルールに対する対応の仕方について悩んでいることが分かった。

中学年はギャングエイジと言われ、気が合った仲間と密に行動をすることが多くなる。集団ができればトラブルも起きやすい。友だちといろいろなトラブルがあった場合、親はどう対応すればいいだろうか。子ども同士のトラブルに、“友だちとの信頼感や絆を育む”という視点をもって親が対応できれば、子どもはトラブルをうまく乗り越え、友だちとの信頼関係や絆を深める力になるのではないかと考える。子どもが進んで友だちと仲直りしようと思うような対応ができれば、友だちとのトラブルは解決に向かいやすいであろう。“友だちとの信頼感や絆を育む”という視点をもった親からの適切なアドバイスによって仲直りし、友だち関係がうまくいくことで、親子の信頼関係や絆が深まり、直面する問題に対して親子で前向きに解決しようとするようになるのではないかと考えた。

そこで、提示された子どものトラブルとそれに対する親の対応を内容とした家庭での場面を通して、普段の子どもとのかかわり方を振り返るきっかけにし、子どもの思いを受け止め、どうかかわるかという相互コミュニケーションについて学び合えるようにしたい。また、この時間を通して保護者同士が自分の意見を伝えたり人の意見を聞いたりするなかで、親としての思いを共有し、共感し合うことができるよう、保護者同士のコミュニケーションを図りたい。そうすることで、保護者同士のかかわりが深まり、保護者間のつながりができ、今後の懇談会でも子育ての悩みやそれぞれの家のルールなどの話題を出しやすくなることを期待している。そして、児童に対するねらいは、家族理解・家族愛、友情・信頼、及びコミュニケーション能力を育むということにした。

3. ねらい

- ① 子どもの思いを受け止め、子ども同士の信頼感や絆を深めるような子どもとのかかわり方を考えるきっかけにする。
- ② 保護者同士のかかわりを深める。

4. 準備

- ① 親用名札（子どもの名前を書いてひもを付けておく）
- ② ワークシート（親用、子ども用）、アンケート（親用）
- ③ 親用筆記用具
- ④ 場面資料プリント
- ⑤ 新聞紙
- ⑥ ベル
- ⑦ コミュニケーションカード
- ⑧ ぬいぐるみ

5. 支援のポイント

テーマ「友だちとトラブルになったら」



ポイント1：冷静に子どもの話に耳を傾けましょう。

ポイント2：子どもが仲直りしたくなるような対応を考えましょう。

	活動内容	親	子	留意点
ステージ①	2:00 1. 楽しくかかわり合う。 ・自己紹介リレーをする。 ・ソーレゲームで3人組みを作る。 ・地球沈没ゲーム。	○子どもは班ごとに、親は子の班に、手をつないで輪になって座る。ぬいぐるみを回しながら、好きなものを添えて自己紹介をする。 ○ソーレゲームをする。最後に、親子別に3人組をつくる。 ○地球沈没ゲームをする。沈没したグループは審判役になり、最後まで残ったグループが優勝。	○子どもは班ごとに、親は子の班に、手をつないで輪になって座る。ぬいぐるみを回しながら、好きなものを添えて自己紹介をする。 ○ソーレゲームをする。最後に、親子別に3人組をつくる。 ○地球沈没ゲームをする。沈没したグループは審判役になり、最後まで残ったグループが優勝。	・ベルが鳴ると口を閉じる約束をする。 ・班長にぬいぐるみを渡す ・新聞紙見開き1枚ずつグループに配る。
ステージ②	2:20 2. 子どもの気持ちを知る。 ① たたかれて腹が立っている気持ち ② 決まりを守ろうとする気持ち ③ それでも、仲直りしたいという気持ち	◎子どもの気持ち。母親の気持ちを考えながら見てください。 【場面】ひろし君は仲良しのまもる君といつも遊んでいる。今日は、雨が降っていてまもる君の家で遊ぶことになった。まもる君の家では、手を洗ってくつをそろえてゲームは家の人が帰るまでしてはいけない決まりになっている。まもる君は、ひろし君に守るように言ったが、ゲームをしたいひろし君は守ってくれない。腹が立ってまもる君はひろし君をたたいた。ひろし君は泣きながら家に帰って、まもる君にたたかれたことをお母さんに話した。お母さんは、「まもるくん、ひどいなあ。まもる君は乱暴ね。もうまもる君と遊んじゃだめ。まもる君の家に電話する。」と携帯を取り、怒って電話した。 ・たたくのはだめ ・電話はしないなあ ○電話をしないのは、どうして？ ・子ども同士で解決させた方がいい ・都合のいいことだけ話しているかも ・子どもも親も冷静になってからじっくりと話を聞く ・けんか両成敗 ・トラブルを助長する	○ひろし君は、怒るお母さんに、何か言いたいことはないかな。どう思っている？ ○どうでしたか？（家の決まり、ゲーム、けんか、電話、気持ちに視点） ・まもる君、決まりを守ってえらい ・たたくのはひどい ・まもる君は、ごめんなさいの気持ち ・ひろし君は、たたかれたことだけお母さんに言っている ・本当は仲直りした ・明日もいっしょに遊びたい ・お母さんは、友だちの家に怒って電話しないでほしい ○電話をしないでほしいのは、どうして？ ・仲直りできなくなる ・一緒に遊びにくくなる ・自分で、解決する ・痛かったから、聞いてほしかっただけ	・テーマを決めた理由を伝える（どうすれば仲直りできるかな）。 ・子どもそれぞれの気持ち、を考える。 ・家の決まり（家ごとに違う）や、それに対する子どもの受け取り。けんかに対する親の対応。仲直りをしてまた遊びたいという子どもの気持ち。視点がいくつかあるが、自由に意見を出し合うことで、それぞれの家庭の決まりや、けんかへの対応について振り返らせる。 ・仲直りしたいという子どもの気持ちを大事にした親の対応に視点を向ける。

	2:30	けんかしても、仲直りしたい、また、いっしょに遊びたいという気持ちがあるんだね。どうしたら、仲直りに向かうかなあ。 ○では、子どもがけんかした時に、どうすればいいでしょう。仲直りを促すにはどうすればいいかいっしょに考えましょう。（ロールプレイのモデルを見て考える） ひろし君とまもる君のけんかした時の気持ちを受け止めて、考えることができましたね。けんかになることはありますね。たたかれると腹が立って相手の気持ちを考えられませんか。腹が立って許すことが難しいこともあるかもしれません。けんかになった時のそれぞれ（親・子・友だち）の気持ちを受け止めて、仲直りしようという気持ちが強くなるようなアドバイス（言い方や態度）ができるといいですね。	○ロールプレイを見て、仲直りしようという気持ちが強くなるのはどの時か、感じる（点数を手で表現する）	・話はしっかりと聴き、仲直りしたい気持ちを引き出す場合、けんかがこじれるような対応をする場合をロールプレイで提示する（お母さん役は進行役と担任、子ども役は全員あるいは希望者）。 ・正解はない。今後もさぐり続けることになる。一緒に考えていこうという姿勢で提示する。 ・仲直りを促すようなかわり方をさぐる。
ステージ③	2:40 2:45 3:00	3. 親が子どもの頃にけんかをした時のことを話ることで、子どもの気持ちをより理解する。 4. 保護者同士で、子育てについて話し合う。 ○子どもの頃にけんかした時の話を（「お父さんもおとっちゃま」話） <子どもが退場して> ○子育てについて、保護者同士で意見を出し合う。後の懇談会につなげる（「うちんく」話） ※ぬいぐるみを回しながら一人ずつ話す ○ワークシートに記入する（家で記入してもよい）	○親の話を聞く <教室に帰る> ○宿題としてワークシートに感想を記入する	・初めの班ごとに座る。 ・わが子だけでなく、班のみんなに語りかけるように声をかける。 ・コミュニケーションカードの説明をし、家でも話題にするように促す。 ※子ども理解が深まったか。 ※保護者同士が相談しやすい雰囲気だったか。 ・名札・ワークシートの回収をする。

7. 留意点

(1) ステージ②での親のかかわり方のモデル

＜よいモデル＞…仲直りに向かわせるかかわり方の例

①たたかれた気持ちはよく汲んで、冷静になってから改めてゆっくり話を聞いて、相手の気持ちも考えるように促す。

②抱っこや“痛い痛いのとんでけ”をしてくれる。(大好きだよ、ひろし)
「よっぽど、まもる君腹が立ったんやろうね。明日は、仲直りしておいで」と言う。

＜悪いモデル＞…(子どものトラブルを助長する例)

①もう、遊んじゃだめ。あの子は、乱暴。と悪口を言う。

②電話で、相手の親に「どんな育て方をしているんですか。」などと、ひどいことを言う。相手の親も腹を立てて、「仲直りせんでえい。」と言う。

※それぞれの気持ちを推し量ることで、解決の道が開けてくる

まもるは、たたきたかったのか。

まもるは、ひろし君が嫌いなのか

まもるは、ひろし君と遊びたくないのか

ひろしは、まもる君が嫌いなのか

ひろしは、まもる君と遊びたくないのか

お母さんは、子どもの友だち関係がうまくいなくていいと思っているのか

お母さんは、子どもの友だちの親とうまくいなくていいと思っているのか

お母さんは、子どもが友だちと仲良くなれなくていいと思っているのか

(2) 場面のプリント

※遅れてきた人に場面が分かるようにする。

(3) 親の発表を促すために

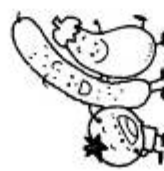
※間接的に、子ども達に、親が発表することは大変だということを伝えることで、保護者が楽に発表できるようにする。

親子タイム便り

2010年7月17日(土)
〇〇小 3年〇組
3週間後 号
発行者 久保田 由香

保護者のみなさま

梅雨明け間近になり、いよいよ子ども達は夏休みになりますが、みなさまも元気で過ごしましょうか。1学期のあゆみを受け取り、夏休みの学習や過ごし方について子ども達と話をすることでしょう。保護者のみなさんは、お子さんが一回り大きく成長できる充実した夏休みを過ごせるよう願っていますが、親が仕事で家にいない間、子ども達がどう過ごすか気がかりなことも多いのではないのでしょうか。



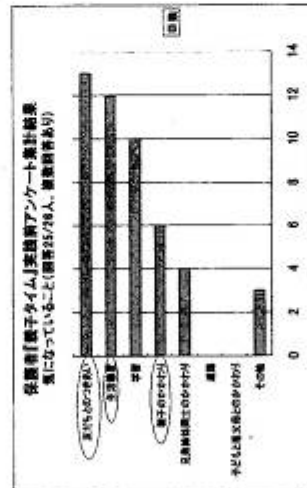
6月末の参観日に実施させていただきました『親子タイム』から3週間がたちました。参加できなかった方へのお知らせをお知らせさせていただきます。『親子タイム』の内容に親不在の友だちの家に行かれた場面があります。家の決まりをお子さんとお話しし合う際、同封の封筒(切手貼付済)にて投函していただけたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

『親子タイム』実践前に実施したアンケート結果を、下記のグラフに整理しました。学習面以外にも、友だちとのつきあい、生活態度、親子のかかわりなどが特に気になっており、自由記述欄からは子ども達の性格や様子の度合いについて、また、行動範囲が広がったお子さんの友だちとのトラブルや友だちの家で遊ぶ時のルールに対する対応の仕方について悩んでいることなどが分かりました。

また、ギャングエイジと言われる中学年になる、気が合った仲間と行動を密にすることが多くなり、集団で遊べばトラブルも起きやすくなります。子ども達も友達と仲良くしようと思うようになり、友だちとのトラブルは解決に向かいやすいと思います。そこで、『親子タイム』のテーマを、子ども達と親の信頼感や絆を育む〜子ども達とのトラブルに対するかかわり方〜とし、テーマに沿って『親子タイム』を計画し、実施しました。一方で、『親子タイム』を通して、保護者同士がもっと知り合い、子どものことや子育ての悩みなどを気軽に話せるようになってもらえたらというねらいをもっていました。

『親子タイム』では、自己紹介やゲームをした後、次のような内容のシーンを、〇〇先生と保護者の〇〇さんと久保田とで劇をして提示しました。

雨の日に、学校から帰ったひろし君と仲良しのまもる君は、まもる君の家で遊ぶことに…。まもる君の家では、帰ると手を洗ってくつろぎをもらって、ゲームは家の人が帰るまでしてはいけない決まりになっている。まもる君は決まりを守ろうとひろし君に言うが、ゲームがあることを知り、ひろし君は「やりたい、やりたい。」としつこい。まもる君は腹を立ててひろし君をたたいた。ひろし君は泣きながら家に帰って、まもる君にたたかれたことをお母さんに話した。お母さんは、「まもる君、ひどいなあ。まもる君は粗雑ね。まもる君の家に電話する。」と、怒ってまもる君のお母さんに電話をした。



この親子タイムについて、みんなで考えました。

子ども達から「ゲームはお母さんがおらんとやられんと、まもる君が何回も言うのに、ひろし君が無理やりやらせると、ひろし君がいかにん。」「まもる君が、ゲームがあるって言うてるので、まもる君がいけない。」「まもる君も、顔をたたたくはいかん。」と、ひろし君の悪い面と、まもる君の悪い面がそれぞれ出されました。また、「両方謝ったからいい。」「ひろし君はまもる君のお母さんがいないから知らない間にやたらいいと思ってる。」「ひろし君がたたかれたら、(ひろし君のお母さんが)電話をしたら、(相手の)顔も見れず、話を聞かなくて、ひろし君とお母さんが(まもる君の家に)一緒に行って、まもる君はたたかれたけど、理由を言い、ひろし君もなんで(ゲームを)やりたかと言いつつ、解決してから謝らない。」「まもる君がひろし君の顔をたたいたの、ひろし君のお母さんは怒って電話をした。(ひろし君のお母さんは)怒っていたので、相手の)顔も見えなくて、電話をした。」という意見などが出されました。

保護者の方からは、「ひろし君のお母さんは、あまりひろし君の言う事を聞かないで、すぐに電話したことが多かった。」「親のいない(出かけている)おうちに(子どもが)遊びに行くのは、…。」「まもる君は、友だちがせっかく来たから、ゲームを出してあげたらよかったのに。」「まもる君の親としては、どんな状況でも手を上げることは許しません。ひろし君の親なら、自分の言を言わずにたたかれたことだけを報告することは許しません。どっちもどっち。とりあえず、両方謝ればいい。」などの意見が出されました。

子ども達に、「ひろし君のお母さんがまもる君のお母さんに電話したことはどう思う?」と聞かされると、なぜかははっきり答えられないけれど、ほとんどの子どもが「嫌!」ということでした。友だちとは仲直りしたい、次の日もいっしょに遊びたいけれど、親が電話をすると問題が複雑になることを無意識のうちに感じ取っているようです。親同士にも仲良くしてほしいのかもしれない。

一つの場面では、いろいろな意見が出ました。3年1組の子どもの場合は、親の言うこと・家の決まりを守るということを大事にし、暴力はいけなくて考えていることが分かりました。友だちの思いを汲み取り、社会に適合してゲームをやらせてあげたいのですが、これは成長を促すのと多感な時期を占めるでしょう。親不在の家での決まりをどう子どもに守らせるかということや、子ども達の友だちとの関係を考えた場合、それぞれの家庭の思いはいろいろでしょう。いろいろな意見があり、これによって一つにまとめることはありません。

子ども達は、友だちとのかかわりの中で、社会でどうかかわっていくべきかを学びます。仲良く遊び、けんかをし、仲直りをし、それらの過程を経験することでコミュニケーション能力は育まれ、社会に適合できるように育っていきます。子ども達同士のかかわりを促し、わが子を取り巻く子ども達もわが子といっしょに育てるといえるような視点をもった対応が、保護者同士でできることだと思います。



『親子タイム』を通して、子ども達で解決をするよう子ども達にも任せるという視点、子ども達はそれだけでではなく自分の悪かった点もきちんと話し、謝はしっかりと聞くべきという視点、それぞれの家の事情で決まりや考え方が異なるという視点など、いろいろな視点で意見をいただきました。

保護者の方の感想にも、「子育てにマニュアルは必要ない(無意味)でしよう。」とありましたが、同じ子ども、家庭は絶対にありませんから、どの家庭にも当てはまるようなマニュアルはありません。自分で子どもをしつかりと見て理解し、どういう子育てをしていくか自分の家庭の子育ての方針を考えていく必要があります。「うちはこうだ」と…。家の決まりが、それぞれ家庭の事情で違っているように…。

それぞれの家庭の味を出しながら、自然をもつて、愛情をこめて、楽しく子育てできるといいですね。そして、子育てでうまくいかないことが重なったり悩みが増えたりしないよう、普段から気軽に学校や周りの人に相談したり、子どもをめぐってそれぞれの保護者のみなさんが顔を割って話ができるといいと思います。そうすると、問題が起ころうとも早く解決しやすいでしょう。

保護者のみなさん同士、普段から子ども達のことや子育てについて気軽に話せることを願っています。

＝保護者の感想より＝

- …「まもる君ひどいよ」については子どもとも話しました。現実にかかる内容で親との約束をとるか、友だちとの楽しい時間をとるか…。子どもにとっては永遠の悩みのような気がします。実際、未だに自分も友だちとおしゃべりする時間は楽しくて、晩ごはんを作るのが嫌になることと似ているような気がします。その場でいろんな意見が出たのも良かったです。…
- …大人でも「双方向のコミュニケーション」は難しいですが、相手の立場・相手のまわりを尊重することが大事であると思います。一つ深呼吸してみる必要があります。
- …①ソーレゲーム。顔見知り程度でしたが、話することができて、保護者同士、少し距離が近くなった感じました。また、3年1組のお友だちの名前と顔を覚える事ができて良かったです。子ども達が相手の気持ちを考えるという機会をつくってもらえて良かったです。②はありがちなテーマ。話し合っ解決できる子、すぐに手が出てしまう子、十人十色ではないですが、親御さんがいる中で、どう自分が対応できるのか、すごく不安な事でもありました。「答えはない。」とおっしゃっていた先生の言葉も理解できます。相手の出方次第で臨機応変にしていきたいですね。自分が相手の身になって「考える力」ももってほしいです。「思いやり」の心をもてば、暴力暴言はなくなると思います。…難しいですね。…
- ゲーム、楽しかったです。あまり話したことのない保護者の方とも自然に話ことができました。②はありがちな状況だったので、自分に置き換えて想像しやすかったです。ただ、答えというか結論をもっと親同士で話し合う時間がほしかったです。今、子どもの遊びの行動など、他の保護者の方と話せ、同じような内容の悩みなどを聞いて安心できました。参観日や学年行事だけでは、保護者同士ゆっくり話したりできないので、また今日のような機会があればいいなと思いました。
- …②「まもる君ひどいよ」で、最終的に子ども同士が謝る、仲直りするようになりましたが、私は、親同士、または、親子4人でソフトな話し合いができたか…と思いました。互いの親のわだかまりも少しはなくなると思います。帰って、「もっと聞いてカード」を見せてくれましたが、うちの息子からは「ちょっとはお母さんだまってカード」の方がほしいと言われました。私も同感でした。
- …私なら…。わが子がたたいたら…「どんなことがあっても手をあげたらいかん」とこちゃんと怒ります。たたかれたなら…どうしてたたかれたかを聞いて、「そりゃ、たたかれてもしゃーない。だいたい、ゲーム、ゲームって…」と、こちゃんと怒ります。どうなってもわが子が怒られると自信があります。人の家、自分の家、それぞれにあるルール。ちゃんと守れる子になってほしいなあ…と思います。これから先、たくさん悩むことがあると思います。親子ともども、友だち関係で。子どもと話せる親でありたいなあと思います。最後に…私は子育てが楽しいです。この世にこれほど自分のことを好きで必要としてくれる存在って他にないと思います。だんだん手が離れて来ましたが、その時々で信頼してもらえる私でありたいです。
- 授業の最初にしたゲームはとても楽しかったです。子どもはもちろん親同士も笑顔で触れ合えたのでよい雰囲気です。本題へ入れたのではないのでしょうか。私はステージ②を見ることはできなかったのですが、少し思ったのが「家庭によって教育やしつけはやはり違うんだな…」と感じました。私が正しいと思って子どもへ言い聞かせていることも、他の親から見れば違った意見を持たれるんだなと思いました。どれが正しくてどれが間違っているかは個人差があると思いますが、私は、人に迷惑をかけないこと、自分の子どもが恥ずかしい思いをしないように、子育てをしたいと思います。それを再度認識することのできた時間でした。

保護者のみなさんの感想から、多くのことを学ばせていただきました。多数寄せてくださって、どうもありがとうございました。

久保田 由香

